

カービュー マーケットウォッチ (2010年8月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体の前年同月比は12カ月連続のプラス！

10年7月順位	10年6月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	34,456
2	(2)	→	フィット	ホンダ	18,141
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	15,267
4	(4)	→	カローラ	トヨタ	12,227
5	(8)	↑	フリード	ホンダ	10,308
6	(7)	↑	パッソ	トヨタ	9,506
7	(6)	↓	ステップワゴン	ホンダ	8,664
8	(5)	↓	セレナ	日産	8,586
9	(10)	↑	デミオ	マツダ	7,840
10	(9)	↓	ヴォクシー	トヨタ	7,349
11	(13)	↑	ウィッシュ	トヨタ	7,328
12	(12)	→	ノート	日産	7,176
13	(25)	↑	マーチ	日産	7,050
14	(11)	↓	ノア	トヨタ	6,961
15	(16)	↑	キューブ	日産	5,628
16	(14)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	5,625
17	(18)	↑	エスティマ	トヨタ	5,451
18	(17)	↓	ラクティス	トヨタ	5,176
19	(-)	↑	プレマシー	マツダ	4,724
20	(19)	↓	ティーダ	日産	4,272

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体の前年同月比は12カ月連続のプラス！

金融危機以前の08年比でも9.7%増に

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した7月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車全体は42万594台で、前年同月比は112.9%と12カ月連続のプラス。前年同月比が2ケタ増になったのは9カ月連続となった。昨年は6月まで前年同月比2ケタ減と低迷を続け、7月は4月から始まったエコカー減税&新車購入補助金制度のおかげで2.8%増と復調傾向となったわけだが、金融危機以前の08年7月データ、38万3258台と比べても、9.7%増と3カ月連続のプラス。9月末で終了する新車購入補助金制度に対する駆け込み需要が明確になった形だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（新型日産マーチ分含む）は29万1822台で、前年同月比115.2%と好調を維持。メーカー合計ではダイハツが4カ月連続、スズキ、スバルが2カ月連続で前年割れ（ダイハツ、スズキは軽乗用車分を含めれば前年同月比はプラス）だが、トヨタ120.6%、レクサス137.1%、ホンダ114.7%、マツダ129.6%、三菱135.1%とそれぞれ前年同月比2ケタ増（日産は2.3%増）となっている。月間ランキングでは15カ月連続トップの「トヨタ プリウス」が2カ月連続で単月3万台突破を達成。7月に売れた貨物車を含めた全体（48万6606台）でみても、14台に1台はプリウスだった計算だ。2位「ホンダ フィット」、3位「トヨタ ヴィッツ」、4位「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」とともに、トップ4は5カ月連続で変動なしだが、5位には7月に発売された「フリードスパイク」が上乘せされた「ホンダ フリード」が前月8位からランクアップした。

軽乗用車は11万3197台で、前年同月比106.5%と5カ月連続のプラス。08年7月の11万5534台と比べても、2.0%減まで回復した。

輸入乗用車は新型「マーチ」などの日本メーカー製を除いた海外メーカー製のみでは、1万5156台、前年同月比124.8%と9カ月連続のプラス。輸入乗用車全体では2万1080台で、前年同月比163.5%と大きく販売台数を伸ばした。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が4873台で7カ月連続トップ。2位は2677台でBWM（ミニを除く）が3カ月連続、以下、3位メルセデス・ベンツ1765台、4位アウディ1322台、5位ミニ964台で、M・ベンツ以外は前年同月比が2ケタ増と好調な売れ行きとなっている。

■ココも気になる！その1

プレマシーが19位にランクインと好スタート！

昨年は軽乗用車を含めた国内乗用車販売台数が17万5703台、前年比84.6%にとどまったマツダ。今年は昨年6月にモデルチェンジした「アクセラ」が1～7月の累計で1万8436台、前年同期比164.5%と好調で、軽を含めた乗用車部門は累計で13万838台、同132.8%と、レ

クサス 194.5%、トヨタ 142.7%に次いで高い伸び率となっている。

ただ国内乗用車販売シェアでは、トヨタ、ホンダ、日産、スズキ、ダイハツに続く6位メーカーだけに、新車攻勢を仕掛けるわけにもいかず、年1車種ペースを保っている。その1車種が今年7月1日に発売された「プレマシー」（4WDは8月5日発売）だ。

プレマシーはもともと5ナンバーサイズのミニバンだったが、先代で全高を低めに抑えながら後席両側スライドドアを採用するなど個性派ミニバンに進化。今回のモデルチェンジでは、売れ行き好調のアクセラ風のフロントマスクに、独自のアイドリングストップ機構、i-stop（アイストップ）を搭載し、その個性を磨き上げた。その結果、7月は4724台で、09年8月以来のトップ30入りとなる19位にランクアップ。発売後1カ月の受注は月間販売目標1800台の4倍超となる7240台に達した。その内訳はi-stop付きが全体の8割を占め、グレード別では充実装備の20Sが55.0%、ボディカラーではアルミニウムメタリック、テーマカラーのクリアウォーターブルーメタリック、クリスタルホワイトパールマイカが人気となっている。

07年「デミオ」、09年アクセラ（販売台数の74.0%がハッチバック）はスマッシュヒットとなっているが、08年のトールミニバン、「ビアンテ」は今年月販1000台ペースと低調。ハッチバックに次ぐ2大市場のミニバンクラスでプレマシーが躍進できるか、マツダの今後を占う意味でも要注目だ。

■ココも気になる！その2

輸入車市場でシェア10.0%に近づくアウディの躍進

海外メーカー製輸入乗用車は9カ月連続で前年を上回り、完全に復調傾向になっているが、金融危機以前の08年と比べると、1～7月の累計は10年が10万3485台、08年が11万9045台で、前年同期比は86.9%と、まだまだ2ケタのマイナスだ。そんななかで、08年ペースを上回る売れ行きになっているのがVWとアウディ。特にアウディは08年比112.2%と2ケタの伸びになっている（VWは104.5%）。

この7月もアウディは1322台で、前年同月比129.0%と好調をキープ。これで14カ月連続で前年同月比がプラスで、7月単月としてはアウディジャパンが発足した98年以来、過去最高となっている。1～7月の累計でも9940台で、前年同期比118.3%。海外メーカー製のみの輸入車市場シェアも前年の0.2ポイントプラスとなる9.6%を記録した。これは7月から始まった「アウディエコカーボーナスキャンペーン（2010年度燃費基準達成モデル16車に20万円の購入サポートを設定）」が好評を博していることに加え、エコカー減税対象車の「A3スポーツバック1.4TFSI」や今年1月に投入された「A5スポーツバック」、昨年来の人気モデル、「Q5」の売れ行きが好調なのが要因となっている。

アウディの好調さは世界市場でも同様で、今年上半期は新記録となる55万4939台で、前年同期比は19.1%増。過去最高だった08年と比べても7.5%増と絶好調なのだ。さらに今年はヨーロッパ市場を中心に、エントリーモデルとなる「A1」や「A7スポーツバック」など12のニューモデルが投入される予定で、スモールカーからプレミアムクロスオーバーモデルまでスキのないラインナップが実現しそうだ。

世界市場における今年の年間販売目標を、過去最高となる 108 万台に設定しているアウディだが、この勢いなら十分達成可能だろう。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
